

第51回東海高等学校総合体育大会バスケットボール競技 戦 評

平成 16年 6月 20 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 9:30~	最終日	女子	準決勝
Aチーム 岐阜県 岐阜女子	74	$\begin{bmatrix} 15 & - & 17 \\ 31 & - & 17 \\ 13 & - & 11 \\ 15 & - & 21 \end{bmatrix}$	66 Bチーム 愛知県 星城

岐阜女子はハーフマンツーマン、星城はスリークォーターのマンツーマンで始まる。岐阜女子は 王にボールを集め内外角からシュートを狙い、星城は 中尾のジャンプシュート、 松尾の3点シュートで得点し、両チームとも持ち味を出して互角の出だしとなる。星城は、 肥田が途中から出場しディフェンスを頑張るとチームのリズムが良くなり、 壁谷、 中尾の3点シュートが決まり、第1ピリオドは星城が2点リードする。第2ピリオドに入ると、岐阜女子は 越智のドライブ、 岩田のパワープレー、 王のポストプレーが立て続けに決まり、一気に逆転する。星城が 玉松の速攻や 松尾の3点シュートで1点差まで追い上げると、岐阜女子は 王のゴール下シュートが続けて決まり、前半は岐阜女子が46-34と12点をリードして折り返す。

第3ピリオド、岐阜女子は相手のゾーンディフェンスに苦しみ脚が止まりだしたが、 服部の3点シュートや 王のリバウンドシュートでリードを維持する。星城は2-1-2ゾーンに切りかえ積極的に速攻に出るが、相手の高さのあるディフェンスに阻まれ思うように点差を縮められない。第4ピリオド、星城はディフェンスをオールコートマンツーマンに変え、激しいプレッシャーをかけてスティールを狙い、次第に追い上げて9点差まで詰めたが、最後は岐阜女子が 岩田のシュート、 服部の速攻で粘る相手を振り切り、決勝へと進んだ。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	神山元秀

第51回東海高等学校総合体育大会バスケットボール競技 戦 評

平成 16年 6月 20 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 9:30 ~	最終日	女子	準決勝
Aチーム 静岡県 常葉学園	65	$\begin{bmatrix} 14 & - & 21 \\ 24 & - & 23 \\ 13 & - & 35 \\ 14 & - & 21 \end{bmatrix}$	100 Bチーム 愛知県 桜花学園

お互いにオールコートマンツーマンで始まる。桜花学園は、外角のパス回しから高さのミスマッチを活かしてゴール下にパスを入れて着実に得点。5分で14-4とリードした。しかしその後桜花学園のリズムが一時悪くなったところについて、常葉学園は 松永、川崎の連続3点シュートや、速攻で12-14と2点差まで追い上げた。桜花学園は 松島のワンガードに切り換えて得点を伸ばし、21-14で第1ピリオドを終了した。第2ピリオド、桜花学園は速攻で得点を伸ばし、32-18とリードを広げる。しかし、粘る常葉学園もドライブで相手のディフェンスを崩し、杉山、川崎、王、赤池の連続10得点で30-32と一気に2点差まで追い上げた。その後も、杉山のドライブで38-40と再び2点差まで追い上げて試合を盛り上げた。前半は桜花学園が44-38と6点のリード。

第3ピリオド、桜花学園は一気にスパートをかけ、鈴木の5本の3点シュートなどで着々と差を広げる。常葉学園も、1-3-1ゾーンやオールコートのトラップで必死に食い下がるが、桜花学園の組織的なオフェンスには通用しなかった。第3ピリオドを終わって79-51。第4ピリオド、桜花学園は控えの選手が伸び伸びとプレーをして、さらに得点を伸ばした。結局、高さ、パワー、選手層ともに勝る桜花学園が、余裕の展開で決勝に駒を進めた。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	小野卓也

第51回東海高等学校総合体育大会バスケットボール競技 戦 評

平成 16年 6月 20 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 12:50~	最終日	女子	決勝
Aチーム 岐阜県 岐阜女子	61	$\left[\begin{array}{r} 8 - 23 \\ 23 - 23 \\ 18 - 21 \\ 12 - 16 \end{array} \right]$	83 桜花学園
		Bチーム 愛知県	

桜花学園は堅いマンツーマンで相手の攻撃を封じ、オフェンスでも 鈴木の3点シュート、塚野のゴール下シュート、3点シュート、速攻などで得点を伸ばす。岐阜女子は 王がゴール下で孤軍奮闘するも、リズムがつかめない。第1ピリオドで、桜花学園が23-8と大きくリード。第2ピリオド、桜花学園は 早川のリバウンドシュートや速攻などで、2分には31-12とする。岐阜女子は 王のポストプレー、服部のミドルシュートで追い上げるも、桜花学園は 中川の3点シュート、ドライブと多彩な攻めで攻撃の手を緩めない。前半は、第1ピリオドのリードを守った桜花学園が46-31で折り返す。

第3ピリオド、桜花学園は 塚野のミドルシュートなどで加点。また 早川が、ポストプレー、ドライブ、ミドルシュート、1対1とすばらしい活躍を見せた。岐阜女子も 王がゴール下で頑張り、 富崎がミドルシュートやポストプレーで対抗して食らいつき、点差は広がらなかった。第4ピリオド、岐阜女子はディフェンスを3-2ゾーンに変えて相手のリズムを崩そうとするが、桜花学園は 塚野がミドルシュートやリバウンドによくからみ、ゴール下で得点していく。岐阜女子も 富崎のポストプレーや 岩田の連続3点シュートで粘りを見せるが、地力に勝る桜花学園が相手を振り切って東海総体優勝を勝ち取った。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	杉山広之

第51回東海高等学校総合体育大会バスケットボール競技 戦 評

平成 16年 6月 20 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 12:50 ~	最終日	女子	3位決定戦
Aチーム 愛知県 星城	62	$\begin{bmatrix} 29 & - & 22 \\ 15 & - & 17 \\ 10 & - & 14 \\ 8 & - & 16 \end{bmatrix}$	69 Bチーム 静岡県 常葉学園

星城オールコートマンツーマン、常葉学園ハーフマンツーマンで始まる。立ち上がりから両チームともディフェンスがうまく機能せず、点の取り合いになる。常葉学園のオフェンスが単発になるのに対し、星城は広いスペースからリズムの良いオフェンスを展開し、中川の3点シュート、ドライブ、中尾のシュートなどで29-22と星城がリードして終わる。第2ピリオド、常葉学園はディフェンスを厳しくして相手のミスを誘い、王のポストプレーを中心に得点を重ね、5分には34-33と一時逆転する。しかし星城も中尾のミドルシュートなどで踏ん張り、44-39と星城がリードして折り返す。

第3ピリオドは前半と変わってロースコアの展開となる。星城は相手の激しいディフェンスに苦しみ、オフェンスリズムが悪い。常葉学園もディフェンスで頑張るものの、思うようにシュートが決まらずリズムをつかめない。お互いに思うように得点できず、54-53と星城の1点リードで終わる。第4ピリオド、常葉学園はディフェンスから速い展開に持ち込み、赤池のドライブなどで得点を重ねていく。星城も壁谷のシュートで対抗し、なんとかついていく。残り1分、常葉学園 杉山の3点シュートが決まり、67-62とリードする。星城はタイムアウトをとって挽回を図るが、点に結びつかない。最後は常葉学園 田中がフリースローを2本とも決めて69-62で星城を振り切り、東海総体第3位となった。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	山田祐治